

## 第 63 回 SSN 勉強会

### 「歴史探検と観察会に役立つ とっておきのグッズ」紹介

渡辺幸子（四街道市）

日 時：2014年6月13日（金）9:00～12:00

講 師：莊子淑子 松川 裕 渡辺幸子

場 所：山梨古村旭公民館（四街道市）

参加者：指導員 10 名 その他 12 名 計 22 名

山梨地区は四街道駅から北東へ4km、約2万7千年前の旧石器時代の遺跡がたくさん発掘された物井地区に隣接することから、この地区でも畑から多くの縄文土器や黒曜石のかけらが出ます。郷土意識が乏しい子どもたちに地域の歴史を知り、郷土に誇りを持ってもらおうと、近くのみそら小・山梨小では、毎年6年生を対象に歴史探検の授業を行っています。

そこで、前半は、通称さかな街道、縄文の丘、鎮守の森、道祖神など、まるで現代からタイムスリップしたような往時を偲ぶおもかげを残している山梨地区を歩きました。集合場所の旭公民館前の道路を渡ると風景は一変、古村の雰囲気が漂います。昔、旅籠があったと云われる宿（しゆく）の交差点に。ここは江戸時代に船橋街道（通称さかな街道）と言われ、鮎子や九十九里の干物などの海産物を江戸へ運ぶ輸送経路になっていました。周辺には、かつて鍛冶屋、豆腐屋、染物屋などの店があり、とても栄えていたといいます。地域の豊かさは家々の立派な屋敷林に見ることができ、中でも石橋家の屋敷林は、長い年月を刻んできたそのスケールに圧倒される思いでした。茅葺屋根が現存する栗原家は、立派なケヤキの一枚板の扉が目を引き、正面にイヌマキ、モッコクの古木、奥には竹林と梅林が広がっていました。中世時代の砦跡と云われる妙見神社。ここは、「山がなくて月を見るのによい里」月見里と書いてやまなしと読みますが、「山梨」の古名とのことです。

次に川戸地区の産土神の御嶽神社。裏には目的地の縄文の丘のゆるやかな台地が広がっています。大小、模様の違う土器や黒曜石のかけらを全員で探しました。短時間でしたが、山梨古村の歴史と自然にたっぷり触れることができました。学校に戻ってきた子どもたちの目の輝きが違うということも納得できました。

後半は、室内で保育園や小学校の支援で行っている「はっぱあそび」を三つ紹介しました。「はっぱあわせレース」「はっぱじゃんけん」「はっぱをならべ」どれも楽しみながら、自然への気付きを大切にしたいあそびです。みんなで童心に戻って楽しみ、最後に輪になってつくったものを見せ合いました。

その後、河添さんから特定外来生物や“いつでも どこでも だれとでも”のちょっといいお話、佐口さんから、生活科、理科、国語の教科書の紹介がありました。一年生でもツチイナゴ、ゴマダラカミキリ、ベニシジミなどいきもの名前がのせてありびっくり！教科書の内容を理解しながら、子どもたちの自然体験を大切にしていきたいと思いました。

